258 新聞研究科始業式

〔『法学新報』第20巻3（229）号　明治43年3月1日〕

○新聞研究科始業式　過般新に中央大学に研究科の一部として

設けられたる新聞科は去月一日午後一時より始業式を挙行したり講師並に学生の著席するや奥田博士は徐ろに演壇に現はれ新聞科設置の由来及学生諸氏に対する注意を述へられたり其大意は「今日新聞科始業式には学長菊池博士臨席の上親しく御嘶あるへき筈の処生憎差支あれは不肖代りて諸子に一言すへし先つ此科の設けらるるに至りたる由来を申さんに昨年の十一月本大学出身の新聞記者諸君の当倶楽部に集まりて懇親を尋められたることあり当時出席諸氏の間に諸種の学校より出つる者の中新聞事業に従事するもの鮮なからされとも学校を卒業したるのみにては経験浅き為め直に物の役に立ち兼ぬること多く就職の後一二年は使用者、被使用者共に不便不利を感することあり若し茲に新聞事業に関する特殊の技能知識を開発するの機関ありて是等の人士を収集し之に適当の教育を施さは其世に裨益する所蓋鮮少にあらさるへし然るに世間此種の設備を為す者なし本大学に於て斯る制度を設けては如何との議起り其後此問題に付数次の協議を重ねたる結果今日茲に此科の始業式を挙くるに至りたる次第なり惟ふに此挙たるや社会の需要に適応するものにして本大学の光栄とする所なり此科に於ては論説の書方又は諸子か大抱負の発表方法等を研究するものにあらすして其目的とする所は専ら斯業の実際的方面の取調へに在り余は固より斯業に何等の経験をも有する者にあらされとも此科の設置に尽力せられたる人人の言ふ所を参考し一片の老婆心よりして茲に二三の注意を諸子に乞はんとす第一に諸子は品性を最も高尚に保つことを怠る勿れ是れ固より言を竢たさる所なれとも新聞の勢力は実に偉大なるものにして筆を以て人を生殺することを得るものなり従て世間動もすれは之を悪用して或は金銭を貪ほり或は酒色に惑溺するに至るものあり是れ其品性の下劣なるに因らすむはあらす抑新聞記者は其偉大なる勢力を以て人情の弱点に乗することを得る機会を有すること多き者なれは常人に比し品性の高潔を以て念とせさるへからさるの必要殊に大なるにあらすや第二に新聞の事業たる実に社会の各方面に渉り関係を有するもの而も社会の現象は表裏の相違あり事件の錯綜ありて容易に事の真相を窺ふこと能はす之に処するの途は唯夫れ用意の周到に在らんのみ第三凡そ何事を為すにせよマメに働くこと即ち精力主義に依らさるへからさることは明なれとも新聞の業に従事する人は最も此心得なかるへからす社会の事実は昼夜を分たす寒暑に拘らす発生変化す而も之を迅速に世人に報道して遺憾なからしめんとす勤勉の徳なくしては能はさる所なり第四に諸子は須らく収利の念を制せらるへし蓋新聞の事業たる決して営利会社のそれと同しからす一身を犠牲として公益の為めに力を致ささるへからす世の実際を観るに之と異なる記者なきにあらす慨すへきなり諸子請ふ之を勉めよ」と云ふに在り尚ほ博士は同科教授課目並受持講師姓名を報告し了て佐藤顕理氏を麾くや氏は博士に代りて登壇先つ記者の心得として（一）新聞の業は神聖にして献身的職務なることを思ふへく（二）敏活を尊ふへきこと（三）思想集中の必要（四）事の真相を観破するの覚悟（五）絶対に人の秘密を守ること（六）社交上の技倆なかるへからさること等に関して縷縷述ふる所ありたる後「ロンドン、タイム

ス」の著名なる記者たりし夫のブローウイ井ッチのベルリン条約のスッパヌキに関する苦心談あり夫より尚ほ二三講師の演説ある筈なりしも時既に定刻を過きたれは之を以て式を終り茶菓の饗応ありて各自退散したり